



石段最上段から見える田園風景

榎木山 観音寺

観音寺の本尊は十一面観音菩薩で、浄土宗に属する。創建は不詳で善随大和尚が開基とされる。

寺伝によると、観音寺は榎木田村にあったものを高岡村に移したといわれている。

文龜二年（一五〇二）の文書『英比谷虫供養縁起記』に、古来念仏虫供養講番の二十二カ村の順が定められている。その中に炊田村があり、榎木田村を炊田村ともいったことから、その時代には観音寺が創建されていたと考えられる。

寺に保管されている鰐口（仏堂正面の軒下につるす金属製の音響具）には、元禄二年（一六八九）に高岡村人から、この鰐口が奉納されたことと記してあることから、元禄年間に現在地に移ったといわれている。

欄間彫刻

本堂の欄間は彫常作。大正十三年から三年かけて彫られた作品。

彫常は明治・大正・昭和にかけて、膨大な量と質の高い彫刻を残している。知多地方全域にわたり、寺社や山車に多くの作品を残し、阿久比町の山車にも彫常の作品が残る。



鰐口

元禄2年(1689)の表記あり



本堂に手を合わせる子ども

本尊 十一面観音菩薩

50年に一度開帳される秘仏（前回開帳は平成11年）

作者、制作年などは不詳。

普段は本堂正面の厨子の中に安置されている。（厨子の前は御前立ち）

「参考資料 阿久比町誌、あぐいのあゆみ、広辞苑」
町内五つの弘法寺を春の訪れとともに、友人二人で歩いて巡った旅。どの寺も取材に快く応じてくれた。貴重な文化財もたくさん自分の目で見る事ができた。今まで知らなかった「あぐい」も再発見できた。
「知多四国八十八カ所 弘法参り」のシリーズは今回で終了します。次回からは「阿久比ぶらり旅 自然を求めて」を連載します。

